

# 整形リウマチ医のすすめ

## Ⅲ 女性医師からみたRA診療

兵庫県立加古川医療センター  
リウマチ科・整形外科部長 / リウマチ膠原病センター部長

中川 夏子

### はじめに

今回、「整形リウマチ医のすすめ」の第3回として、「女性医師からみたRA診療」を担当させていただくことになりました。そこで、少し、自分自身のリウマチ整形外科医としての今までを振り返ってみたいと思います。

私は神戸大学医学部を卒業後、手外科に対する憧れや「手外科は女性に向いている」というご意見、素敵な女性の先輩の存在などがあり、整形外科入局を決めました。大学院ではRA関連の研究テーマで学位を取得、その後リウマチの専門病院に勤務することになり、一気にその治療に魅了されました。薬物治療も興味深かったのですが、中でもリウマチ手外科の魅力の虜となった私は、多くの著名な整形リウマチ医の先生方にお会いできる機会に恵まれ、色々のご指導をいただきながら、夢中になってRA治療に邁進してきました。現在は兵庫県立加古川医療センターの整形外科、リウマチ膠原病センターに勤務して、日々楽しく忙しく過ごさせていただいています。本当に気がつけば整形リウマチ医になっていた、というのが実感です。

### リウマチ治療の魅力とは具体的には？

薬物治療そのものも、最近では想像できないほど有効な薬剤等が使用可能になり、選択肢も増えて、つらい関節症状も劇的に改善することも多く、一般的な整形外科診療では味わえないようなドラマチックな展開を経験できます。そして手術！関節内を直接、手術で確認できる整形外科医が、RAの薬物治療も同時に担うことの意味は大きいです。手術と薬物治療の優先順位決定にも、手術方法に習熟している整形外科医の方がよりの確な判断ができ

る可能性があり、そこがまた魅力です。関節内注射や装具療法などの保存的治療も整形外科医には選択可能です。内科的アプローチに加えて整形外科医の視線はRA治療に必要な不可欠であり、本来RA治療に向いているのは整形外科医では、とも思います。

### リウマチ手術（特に女性医師にとって）の興味深いところは？

私自身は手外科手術や足の外科手術に関わることが多いですが、機能面に加え外観上の問題が珍しくありません。薬物治療だけでは解決できない高度な手指変形・足趾変形を様々な手術の組み合わせで工夫して解決でき喜んでいただける点は何物にも代えがたい魅力です。最近では関節破壊が修復される可能性もあり、関節切除だけではなく関節温存手術が注目され、まだまだ進歩が期待できる分野でもあります。特に女性医師にとっては、細かい手技が多いこと等、向いている点は多いと思います。また手術計画で目標を立てる際に、外観上の問題（手足変形などの「見た目」に女性はより敏感です）や女性特有の日常生活動作改善（お化粧のしやすさなど美容関連）についてよりリアルに考えることができるのは女性医師でしょう。もちろん手外科手術、足の外科手術以外にも、脊椎や大関節などの多岐に渡る興味深い手術に関わることもできます。

### 女性医師がリウマチ治療にかかわることの意味は？

女性には様々な特有のライフイベントがありますが、特に妊娠や出産可能な年齢におけるRA治療は重要であり、ここにも女性医師が診療にかかわることがプラスには

たらく可能性があります。私も外来診療で、色々な微妙な問題を含め、何となく「女子トーク」（女子トークに年齢は関係ないのです）になっていることもあります。それから装具治療でも、家事の際に使いやすいかどうか、防水性はある方がいいか、見た目の可愛さや装着しやすさが工夫できないか、など女性医師独自の視点を生かすことができます。

### 終わりに

最近、男女共同参画の重要性が目立っています。私自身、女性リウマチ整形外科医としてリウマチ治療に携わることができてとても幸せであり、この魅力をもっと発信したい、輪を広げたいと願っています。本当に、リウマチ治療の魅力は語りつくすことができません。ぜひ、女性も男性も、この素晴らしい整形リウマチ医の世界へ！